

しがレクからのおたより



令和3年度 第3号 2022年1月発行

滋賀県レクリエーション協会 事務局 発行

送信・返信先 〒525-0052 滋賀県草津市西矢倉 3-17-13 黒川かず江方

常に意識を高く持って

コロナ禍により生活様式が大きく変わり、家にいることが多くなって3年目になるのでしょうか。感染力の強いオミクロン株により本年度はさらに厳しい生活となるようです。私自身も家にいることが多くなり、どうしても身体を動かすことが少なくなり、パソコンの前にいることが多くなりました。更に今年は寒い日が続き、外に出ることがめっきり減って、体調も思わしくありませんが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

レクリエーションという人間交流を目的とした活動を推進する我々にとっては、活動そのものが休止となり寂しい日々が続いていますが、レク指導者の研修組織である淡海レク指協等も細々とではありますが、研修しています。ニュースポーツやクラフトが中心ですが一人でも多くの指導者の方々の参加を期待しています。

レクリエーション運動がマイナーであり、多くの人に取り上げてもらえない現状の中で「レクリエーション」を県民の皆さんの心に芽生えさせるためには、ただ楽しいというだけでは全く効果がありません。レクリエーション活動とは、単に楽しいだけでなく、楽しい中に学びや気づきがなければならず、更には学び・気づきから自分の行動の中に活かせる、すなわち行動化があつてこそ、レクリエーションと言えるのだと思います。皆さんも卑下する必要はありません。レクリエーションに対する確固たる信念を持ち、前向きな姿勢で県民に働きかけていただくことを期待します。

滋賀県レクリエーション協会
会長 前山 亨

フォローアップセミナーのお知らせ

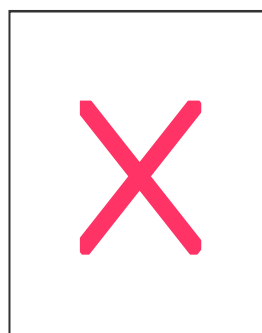
会員のみなさまを対象とする研修会を開催します。今回は、伝承折り紙の「連鶴」「般若の面」「扇の上の鶴」といった華やかなものや、子どもや高齢者も楽しんで折ってもらえる簡単なものまで、幅広い内容となっています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

日時：令和4年2月26日（土）

9：15～12：15

場所：堅田市民センター

材料費：300円



日本レクリエーション協会の動向

この2年間でレクリエーションに限らず、様々な社会的な活動が中止や延期になり、各種団体で事業を開催できていない現状があります。組織の弱体化が懸念されているところではありますが、人々の心身の健康を推進する活動を押し進めることが求められています。そこで、日本レクリエーション協会では、以下のような方針を掲げています。

1) 加盟団体と連携した健康スポーツの推進

- (1) 健康スポーツ・フェスティバル（仮）の開催：ウォーキングを核に、都道府県レク協会と種目団体の連携による「健康スポーツ・フェスティバル（仮）」を全国20カ所で開催する。
- (2) 健康スポーツを応援するサイト「ケンスポコム」の活用促進：2022年度は20団体の参画を目指し、サイトの発信力を高めると共に、データ連携による広報活動の拡大や参加者・会員管理を支援する。
- (3) 「健康スポレクひろば」事業のリニューアル：高齢者のスポーツ未実施者を対象とした事業から、地域の健康づくり・介護予防も行える三世代交流等もできる事業とする。

2) 都道府県レク協会の公益性と統括機能の強化

- (1) 普及から養成へつながる事業の仕組み構築：「ケンスポコム」を活用して、公認指導者養成へと結びつけていく事業の流れをつくり、都道府県協会の各事業が、つながりを持って実施できる仕組みを構築する。
- (2) レク・インストラクター養成協働事業：2022年度は20都道府県での実施を目指し、協働で養成を行うことのメリットを拡大する。
- (3) 都道府県協会の担い手育成：2021年度、14県の協会にて担い手育成を開始し、若手グループをつくることや、協会の中での役割づくりが行われている。将来の担い手育成の動きを拡げる。
- (4) 公益性を強化するための総合的な支援：事業助成、事務局業務軽減、法人化促進等、各協会の状況に合わせた総合的な支援を行う。

都道府県レクリエーション協会情報交換・意見交換会

12月8日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで情報・意見交換をする会合がありました。そこでは、全国の都道府県協会の「法人化」についてのパネルディスカッションが開催され、現状は、NPO法人（13協会）、一般社団法人（7協会）、公益財団法人（1協会）の21協会が法人化されていることが紹介されました。法人化のメリットとして、「税金がかからない」、「団体の社会的信用をあげると、委託が得やすい、増える」、「行政とのつながりがよくなった」、「委託が増え、財政基盤がよくなり、組織が増大した」などがあります。滋賀県レクリエーション協会でも以前から法人化について費用の積み立てをしており、法人化の準備を進めております。

また、各協会の好事例が紹介され、「動画制作等ICTの活用」などについての説明がありました。インターネットを活用した研修事業を実施している協会が19%、WEB会議を実施しているところが40%、動画を作成しSNS等での配信または研修等での活用が32%でした。滋賀県協会でもICTの活用推進を進めていこうと検討中です。

会員の活動紹介

滋賀県インディアカ協会

『インディアカ』というニュースポーツ、ご存じですか？

「どこかで一度見たことがあるような気がする。」というあなた！

そう、赤い大きな羽根を付けた白いボールを4人対4人でバドミントンコートを使って打ち合う、あのスポーツです。

初めての方、少人数でも取り組みやすく、すぐにラリーができるようになりますが、意外と奥の深い技術要素を秘めていて、上達につれて活躍の場は、県・全国・国際レベルまで広がっています。

—昨年から続くコロナ禍は次々と変異を繰り返しつつ、未だ終息が見通せない状況となっておりますが、当協会では感染者数の動向を確認しつつ、十分な感染防止対策をとった中で令和3年度事業に取り組みました。

9月には毎年実施している「日本インディアカ協会公認審判員」講習会を実施、新しい公認審判員仲間が誕生、また10月末には関西6府県で6年一度の輪番となっている「関西ブロックインディアカ大会」を、草津市総合体育館をお借りして無事開催することができました。

そして11月7日（日）には「県レク大会・インディアカの部」を開催、県内8チームの愛好者団体が大津市勤労者体育センターに集い、和気あいあいと一日を過ごすことができました。

当協会・技術指導委員会では、愛好者の拡大を願って、出張講習会もお受けしております。

少人数の同好会やPTAでの体験会等、お問い合わせは下記メールアドレスまで、ぜひ一度ご相談ください。

滋賀県インディアカ協会事務局長・安田晴彦

（お問い合わせ先：piuj4584@yahoo.co.jp）



「関西ブロックインディアカ大会」



「県レク大会・インディアカの部」

オンラインでのレクリエーション

相変わらず、COVID-19 が猛威を振るっておりますが、いつまで「新型コロナウイルス感染症」といわれるのか、「新型」と「旧型」について疑問に思う今日この頃ですが、小学校においてもタブレット端末が生徒全員に配布される場所もあり、オンラインでの活動が広く普及してきております。また、スマートフォンやタブレット端末の普及とともに通信システムが第5世代へ移行していき、人と対面で会ってからコミュニケーションをすることが日常であったこれまでとは異なり、オンライン上でのコミュニケーションが一般的に普及した社会になりつつあります。そのような時代において、ますますオフラインで実際に対面し直に交流することが求められておりますが、オンライン上でのコミュニケーションに慣れていく必要もあります。今回は、オンラインでできるアイスブレイクをまとめた本を紹介いたします。

『オンラインでもアイスブレイク！ ベスト 50 不慣れな人もほっと安心』

青木将幸 著，本の森出版，2021年3月

ISBN 978-4-86614-121-3

会員限定記事